

令和4年度 第1回 久喜市在宅医療・介護関係者研修会 グループ発表

テーマ

「コロナ禍で支援する中で困ったこと、その対応。必要と感じた支援や制度を出しあってみよう！」

医療・服薬・介護・生活の4つの場面に分けて、困った点・問題点とその対応・解決策についてグループワークを行いました。

グループワークでは、困った点・問題点とその時の対応や解決策について話合いました。

各グループで出た意見については、別紙のとおりです。

また、各グループから一言発表していただきました。

発表順です

★5グループ

《医療関係》

・具合の悪い方がいたときに、なかなか保健所にアクセスが繋がらなかった、検査キットの確保や検査はどこでできるかの質問に、近くの病院にも行けないというお話があり、検査キットの紹介をした。

・実際に訪問看護を使われている方には、訪問看護師が自宅まで行き、検体を取ったという動きがあった。

・検査に行きたいけれど移動ができない寝たきりの方からの相談には、発熱者に対する民間の移送を紹介した。

《服薬関係》

・薬局への感染拡大をなくすため、病院職員が取りに行った。

《介護関係》

・ヘルパーさんやデイサービスの方が感染し訪問できないときは、代わりに看護師さんが訪問して支援した。感染予防のために先にショートステイを利用した。

★8グループ

・服薬や介護、生活をいったいどのようにしていくかが問題に上がった。→これに対して明確な解決策はないが、至急速やかに訪問看護や訪問診療、介護にもっていく。服薬も訪問薬剤師の力を借りる。

・事業所の家族が感染したらメールで知らせる。また、サービスを受けていた方たちの行き場がなくなってしまうことが大きな問題ではないか。→

事業所がだめであれば、至急に別の事業所や介護関係のところをお願いします。

(一時的に)

・体調変化があったとき、ご家族・本人にしてもどこに相談していいのかわからない、保健所にもつながらない→誰でも相談できるところがあると不安解消にもつながる

・普及、レンタルできるものがシステム上出来上がってれば、いい。コロナ禍だから普及したのものもあるが、そういったものが先にあったらよいのではないか。

・手に入れるのに苦労するものは、支給される窓口とかあるとよい。

### ★2グループ

・保健所につながらないので、独自で個人的にファストドクターを依頼した。

・医療機関としては、薬剤関係や検査キットはあらかじめ少しストックしておく。

・受診や入院の移動手段がない。個人では解決できないので、行政に考えていただきたい

### ★3グループ

・電話での診察や家族の代理診察等で対応した

・薬を取りに行けない方は平日だったら配達してくれるところやドライブスルーで受け取れるという形もあった。

・主介護者が陽性でサービス停止になってしまった場合が多かったが、3 か所くらい濃厚接触者のためのショートステイが利用できるところがあり、保健所に相談して割り振ってもらうという対応ができるところがある。

### ★7グループ

《医療》

・発熱があっても受診先が見つからなくて困った。PCR検査が受けられない。  
→薬局とかで検査キットを販売している、陽性が出たら保健所が対応してくれるという対応の仕方もある

《服薬》

・薬の不足、カロナールの不足、家に入れなくて服薬確認ができない状況のとき、  
→連携している医療機関とか、看護師さん、ヘルパーさんとかに確認していただければという意見がでた。

《介護》

・デイサービスとか受けられなかった→その患者さんを診ている医療の関係者

にも教育が必要。ヘルパーさん以外でも、患者さん自身が今までの医療関係者の方とお話をする事や、介護士さんとかと関わってきたことが、コロナで対応する機会が減ってしまって認知症が進んでしまった→対策ができなかった

・担当者会議とか退院時カンファレンスが減ってしまい、医療関係者との交流が困難になってしまった。電話ではニュアンスが違ってしまい、うまく連携が取れない→担当者会議や退院時カンファレンスは、予防接種を3回受けていれば、という条件付きで開きたい

### ★1 グループ

・スタッフの感染により欠勤があるという課題→そういったことに対応して協力できる体制をつくる

・患者さんが病院に行けない、ライン出来ない→オンライン診療の活用（実際登録が必要）→新たな課題が出ている

・→服薬確認の件で、ご家族の協力や福祉の関係機関、訪問看護師さんやヘルパーさんに服薬の確認を取っていただく

・→かかりつけ医でも健康観察をする機会をつくる、感染した情報をかかりつけ医に連絡する仕組みをつくる

### ★10 グループ

#### 《医療》

・受診控えや通院介助の方の陽性により、診察ができず、出来上がった入れ歯が装着できなかったという問題→医療も安全対策をしていることを周知したい

・→歯科もリモートが開始されている

#### 《服薬》

・リモートで薬の処方ができるとう改善につながる

・介護サービスでインスリンの注射をしていたが、行けなくなり、家族が理解してもらえればできたかも。薬もご家族の方の手渡しとか介助してもらえたらよかった。→ご家族へインスリンの使い方を理解してもらおうとか、服薬の重要性を知っていただく。

・服薬管理指導でも薬剤師が家の中まで入れないので、ご家族の理解・協力者があるかないかで違ってくるので、その重要性を知っていただく。

#### 《介護》

・見学・体験が全くできなくなってしまった。イメージがつかない。

・外出の機会が減ってしまうので、高齢者の方の交流が減ってしまうという問題

★9 グループ

《医療》

- 受診がうまくできないから控えてしまう、どこでやっているのか、どのように受け付けてくれるのかわからない
- 医療提供側からは、この時間内に発熱外来をやっているのを把握しているが、周知されなくて、電話等が午前中に殺到してそれに忙殺されるということが発生した
- 「検査キットを使って、受診しなくても療養できますよ」というところが周知できていない→周知の啓発活動、SNS等を使っての活動が必要
- 高齢者の方が、ワクチンの予約ができないという相談が多かった→行政の方で、電話とか何かいただければ、代行してくれることを周知する必要がある
- スタッフや家族が感染したり、濃厚接触者になってしまうとヘルパーさんも入れなかったりしたので、服薬ができなかった。→人は依存しないようにAIとかロボットのなものを使って服薬チェックをしてくれるような進歩があればという提案

★6 グループ

《生活》

- コロナの窓口、保健所とかしっかりした電話番号の方がご家族に連絡したほうが、安心するのではないか
- いつ、だれが、どうやったかを皆で共有し、一緒の方向性を持っている、同じ方向を向くことが大事

渡部先生から総評

- 保健所に電話が殺到したのは、繁忙期におきておりました。
- 皆様にご案内するのは、埼玉県のホームページに、「新型コロナウイルス感染症総合サイト」があります。この中に、濃厚接触者の定義とか、困って受診しようか迷ったときの一般的に多い相談等については、ホームページで公開させていただいております。情報を刷新しておりますので、お問い合わせがありましたらこちらのサイトを情報提供をしていただければありがたいと思います。
- 埼玉県のほうで陽性者の方についてはショートメッセージで、携帯電話の方にいろいろと必要な情報は提供させていただいております。
- 高齢者の方やご家族で、メールをもらっていても読んでいない方も多々おまして、電話が殺到する原因ともなっています。必要な方には情報提供していることを承知いただいて、声かけをしていただけると助かります。
- やはり感染症自体が、一時的な保健所の関わりということもあり、不測の事態ということもあり、サービスがなくなったらを考えると、服薬の管理であれば、ある程度自立した服薬管理ができるような体制を作るとかオンライン（ドッツ?）で、直接その薬を服薬しているところを確認させていただいているというようなことも、結核の服薬管理ではやっているのでも、日常のご検討いただければいいのかなと思います。

関谷先生総評

- グループワークで共有できたことは非常に有意義だったと思います。
- コロナに関しては、これはもう災害です。医療供給体制やシステムの供給体制と利用者側がアンバランスになっている。
- 想定外のことを、今後、久喜市、保健所、医療機関等が想定し、それに対する対策や工夫など、例えば集団で面倒を見ようとかいう工夫です。今後につなげてほしいと思います。